

## シグマ研究委員会

### 61年度第6回運営委員会議事録（案）

日時 昭和61年12月16日（火） 13:30 ~ 17:30  
場所 原研本部第4会議室  
出席者 鹿園（委員長，原研）  
梶山（東北大），中嶋（法政大），中沢（東大原施），  
村田（NAIG），若林（動燃），五十嵐，河原崎，長谷川（原研）  
オブザーバー：飯島，川合（NAIG），浅見，中井，中川（原研）

#### 配布資料

1. 第5回運営委員会議事録（案）
2. 61年度旅費使用状況
3. Specialists' Meeting on Experimental Data for Decay Heat Predictions
4. JENDL-3 編集グループ打合せ会合経緯
5. JENDL 積分評価WG S61年度計画と現状
6. 62年度シグマ研究委員会委員（案）
7. 標準群定数についてのアンケート結果集計
8. 核データ国際会議関係資料
9. Meeting of European Members of the International Programme Committee
10. 核データ国際会議第1次案内
11. IAEA Consultants' Meeting on Data Requirements for Medical Radioisotope Productions
12. 医学用原子分子・原子核データワーキング・グループ
13. FP核データワーキング・グループ活動報告
14. JNDC崩壊熱評価データの "Authorization" について
15. 標準（共通）群定数の作成と積分テスト

#### 議事

##### 1. 前回議事録確認

前回（11月7日）会合の議事録を資料1により確認を行った。

## 2. 事務局報告

### (1) 旅費使用状況

資料2により報告があった。

### (2) 核データニュース発行の準備状況について報告があった。

(3) アクチニド・ニュースレターへの投稿の要請とともに締切が1月15日との説明があった。

## 3. NEACRP崩壊熱専門家会議について

五十嵐氏から資料3によりSpecialists' Meeting on Experimental Data for Decay Heat Predictionsの日本のプログラム委員に吉田氏 (NAIG) を推薦したことが報告された。

## 4. AGM on Nuclear Theory for Fast Neutron Nuclear Data Evaluation

鹿園氏から、来年10月に北京で行われるこの会議のOrganizing Committeeの日本のメンバーの推薦に五十嵐氏を推薦したとの報告があった。

## 5. JENDL-3編集状況

浅見氏から、資料4によりJENDL-3編集グループでの打合せ会合の最近の状況等について報告があった。その中で、JENDL-3編集の進行状況の表の作成を検討しているとの説明があった。

## 6. 専門部会ワーキンググループ報告

### (1) 医学用原子分子・原子核データワーキング・グループ

中井氏 (尾内氏代理) から資料12により、WGの最近の作業状況について報告があった。その中で、最近では核データよりも原子分子データの方が重要になってきていること、日本医学物理学会第3回研究発表会にWGメンバーの大部分が参加したこと等の説明があった。

これに対して討議が行われ、阻止能および重イオンのデータについて、また原子分子データ研究委員会との関連について質疑応答があった。また阻止能を本格的にやるなら計測の実験屋を入れた方が良く、今後の方針を決める必要があるので、早急に62年度の計画を立てて欲しいとの意見があった。

### (2) FP核データワーキング・グループ

川合氏から資料13により、JENDL-3FP評価およびファイル化の作業の概要ならびに62年度の活動予定について報告があった。その中で積分テストの準備が出来ていること、元素として重要な核種については

しきい反応も含めること、外注作業の状況等について説明があった。

### (3) JENDL積分評価ワーキング・グループ

長谷川氏から資料5により、61年度のWGの活動状況、とくにJENDL-2データの断面積調整、FBR用ランプ化炉定数の作成、JENDL-3積分テストのための検討等について報告があった。

## 7. アナウンス

(1) 五十嵐氏から資料11により、理研で行われるIAEA Consultants' Meeting on Data Requirements for Medical Radioisotope Production のアナウンスならびにこの会合についての梅沢氏からIAEAの岡本氏宛の手紙の紹介があった。

(2) 村田氏から、原子力委員会学会の中にある核融合次期大型装置検討分科会、核融合開発基本問題検討分科会、核融合炉工学技術検討分科会からの報告書中に核データに関する記述があるとの紹介とともに資料が回覧された。

## 8. 核データの公認化について

飯島氏から資料14により、JNDC崩壊熱評価データのauthorizationのために学会の中に「原子炉崩壊熱基準に関する研究専門委員会」を設置することの提案があり、討議を行った。主な意見は次の通り。

- ・その委員会での具体的な作業は何か、委員会はまとめをやるだけで学会はそれをrecommend することか。
- ・原子力基準値の検討の動きの一環として位置付けて検討した方が良い。
- ・調査専門部会の方が良くないか。
- ・学会がrecommend するもの出し方についても検討して欲しい。
- ・ad-hoc的なもので良いのか。
- ・運営委員会は協力の意志表示だけをすれば良いのか。等々。

討議の結果、発起人に飯島氏がなり、学会企画委には村田氏が説明することになった。

## 9. 核データ研究会を振返って

浅見氏より、会計報告ならびに研究会・懇親会の出席人数について報告があった後、反省点等について意見交換を行った。

## 10. 62年度専門部会活動計画

五十嵐氏から、今年度でJENDL-3の編集が終り、62年度から

JENDL-3 以後の問題について取組むために、専門部会とくに核データ専門部会のWGを再編成する必要があるのではないかとの問題提起があり討議を行った。これに対して次のような意見があった。

- ・ベンチマークテストのフィードバックがあるので核データ評価WGは残っていないと困る。
- ・JENDL-3 以後の問題は新しい体制でやる方が良い。
- ・評価WGのみを残して、サブWGは解散しても良いのではないか。
- ・( $\alpha$ ,  $n$ ) データの整備は早くやって欲しい。等々

この結果、各専門部会の意見を聞いてまとめることにした。

#### 1 1. シグマ研究委員会 62 年度委員名簿

浅見氏から、62年度のシグマ研究委員会委員名簿を作成する際に検討したルールとともに、それに基づいて作成した62年度名簿案(資料6)について説明があった。事務局案は若干の修正を行い運営委員会案とすることにした。また62年度より幹事2名を置くことにした。

#### 1 2. データ集および標準炉定数作成検討グループについて

長谷川氏から資料7により、標準炉定数作成のアンケートの集計結果についての説明とともに資料15により標準炉定数の作成と積分テストを進める際の問題点について説明があった。これに対して、manpower の問題、ガンマ線生成データのテスト、同時評価の分析等について質疑応答があった。

#### 1 3. 核データ国際会議準備状況

五十嵐氏から、水戸市長に国際会議について説明して協力方を依頼したこと、外国へ260部(68ヶ国)へポスターおよび第1次案内を配布したこと報告とともに、国際プログラム委員からの返事をまとめた資料8の説明、ヨーロッパのプログラム委員によるプログラムの検討結果(資料9)の説明があった。この中で資料8, 9については12月8日の国内のプログラム委で検討したこと、招待講演には38件(30分: 8件, 20分: 30件)、ポスターセッションには160~170件を予定していること、日本文の第1次案内(資料10)は近日中に配布する予定であること等の話があった。

#### 1 4. 原子力学会特別会合

来年春の原子力学会での特別会合のテーマについて討議を行い、

ドレスデン会議の報告（前川氏）

JENDL-3以後の問題，全般（中沢氏）

標準炉定数（長谷川氏）

座長 加藤氏（名大）

とすることにし，関係者の確認を得た後，1月9日の企画委にかけることにした。

次回は1月19日（月）に原研本部で行う予定。